学校教育目標　かしこく　たくましく　心豊かな　児童の育成
目指す児童像　瞳・笑顔・汗・会話　きらきら輝く　鈴谷の子

令和５年９月２９日号
家庭数配付

鈴谷小だより

令和５年度　第６号
さいたま市立鈴谷小学校　☎８５２－５６７５
鈴谷小Ｗｅｂページアドレス　https://suzuya-e.saitama-city.ed.jp/

地域の教育拠点基地として

校長　　中田　清人

私は、昨年度４月に鈴谷小学校に赴任した際、最初に発行した「鈴谷小だより」を次のように締めくくりました。

> **鈴谷小学校は、全教職員が力を合わせ、一丸となって取り組んでまいります。そして、保護者の皆様、地域の皆様と手を携え、子どもたちの教育の拠点基地として前進してまいります。（中略）目標達成に向け、「この指とまれ」と差し出した指にみんなが集う、そんな学校づくりを目指します。**（令和４年４月８日号鈴谷小だより「この指とまれ」より）

私のこの思いが１つの形となりそうな取組が、スタートしようとしています。

すでに、さいたま市長の８月の定例記者会見やその他の報道等で明らかになっていることですが、市では**「待機児童の解消と保護者負担の軽減を図るため、学校の教室を活用した放課後児童クラブと放課後子ども教室を一体的に行うモデル事業を実施」**します。そのために鈴谷小学校を含む市内４校が、**令和６年度モデル校として検証する**ことになりました。待機児童解消、保護者負担軽減のニーズがあり、学校の施設がそうした機能を期待されているのであれば、私は応えたいと考えています。

この申し出を受けるにあたっては、私にも教職員にも、現在行っている教育活動に支障がないかなど多少の不安はあります。例えば、どの教室を使用するのか、学校施設の管理については、市と学校とがどのようにすみ分けるのか等の不安です。しかし、不安を課題として整理することで、解決への糸口はきっと見つかるものと考えています。そして、このことがモデル校としての役割であると思います。私は、目の前に課題があるとき、「それは、到底できない」と考えるタイプではなく、「どうしたら解決できるだろう」と考えるタイプの様です。そして、このような校長の下で、教職員もアイディアを出しながら思いを１つにしてくれています。

私は、いろいろな立場の方が学校施設を利用することで、学校の安全性がより高まったり、施設設備がより充実したりするのではないかと期待しています。そして、そのことを市の担当課や担当者ともよく話し合い、皆にとって Win-Win な事業としていきたいと、学校経営の視点から考えています。つまり、地域の教育拠点基地として学校の機能を充実させたいと戦略的に考えているのです。

学校は、家庭や地域と共通の目的をもっています。それは、鈴谷の地域に住む子ども達に健やかに育ってほしいということ、幸せになってほしいということです。地域の皆さん、保護者の皆さんにとっての利便性が上がることや地域の皆さん同士が顔なじみになることは、コミュニティを充実させる大変価値のあることであり、それは最終的には子ども達を育てるという共通の目的につながっていくものと考えています。

どうですか。ワクワクしませんか？